

[野菜部門 平成 30 年度 指導参考資料]

事項名	青森県におけるゴボウ黒条病（くろすじびょう）の発生確認		
ねらい	平成 29 年に県内のごぼう産地で黒条症状の発生が広く見られ、六戸町の野菜研究所内圃場でも同様に発生が見られた。病原を調査した結果、本県において初確認となる「ゴボウ黒条病」によるものであることが明らかとなったので、その特徴を示し、診断と防除対策上の参考に供する。		
指導参考内容	<p>1 発生状況 発生地点：野菜研究所 16 号圃 発生時期：8 月下旬 品種：「柳川理想」 発生割合：ほぼ 100%</p> <p>2 病徴 はじめ葉脈や葉柄に淡褐色の小病斑を生じ、その後黒褐色～黒色の病斑が拡大してすじ状の病斑となる。拡大とともに病斑の中心部は陥没し、病斑部から折れやすくなる。病斑は若い中心葉の葉脈および葉柄に形成されやすい。また、気温 20℃以下で多湿条件下で発生しやすい。</p> <p>3 病原菌 病斑部から分離した菌について、射出胞子と菌糸の形態観察、接種試験を行った結果、病原菌 <i>Itersonilia perplexans</i> による「ゴボウ黒条病」と同定された。</p>		
期待される効果	ゴボウ黒条病の特徴を明らかにすることにより、早期発見が可能となり、被害拡大を防止することができる。		
利用上の注意事項	<p>1 ゴボウ黒条病に対してはフルアジナム水和剤（フロンサイド水和剤）が農薬登録されている。</p> <p>2 本資料は平成 29 年 12 月 13 日現在の農薬登録内容に基づいて作成した。</p> <p>3 農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認して使用者の責任のもとに使用すること。 「農薬情報」(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/) 「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm) また、短期暴露評価の導入により使用方法が変更された農薬は、登録内容の変更前であっても、変更後の使用方法で使用すること。</p>		
問い合わせ先（電話番号）	野菜研究所 病虫部（0172-53-7085）	対象地域及び経営体	県下全域のごぼう作付経営体
発表文献等	平成 29 年度 試験成績概要集（野菜研究所） 第 71 回北日本病害虫研究発表会		

【根拠となった主要な試験結果】



写真1 ごぼうの黒条症状（葉脈の黒変）
（撮影日 平成29年8月23日 野菜研究所）

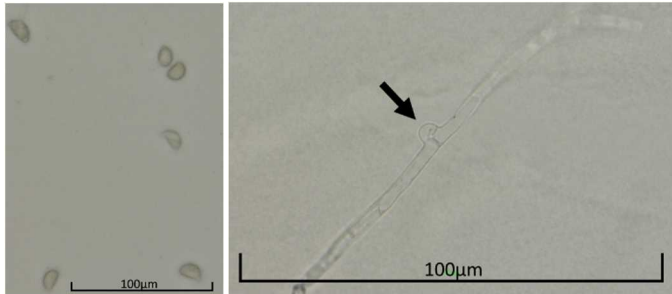


写真2 射出胞子

写真3 菌糸のクランプ

表1 射出胞子の大きさ（平成29年 野菜研究所）

場所	六戸町野菜研	北海道 ^{a)}
宿主植物	ゴボウ	ゴボウ
菌株	IBR1	IB9601
縦 (µm)	13.0-17.3	10.4-15.4
横 (µm)	8.3-11.5	7.2-11.1
色	無色	無色
形態	半月形～卵形	半月形～卵形

(注) a) Horita and Yasuoka (2002)
射出胞子は48個計測した。



①葉脈の病斑（接種8日目） ②葉柄の病斑（接種8日目）

(撮影日) ①②③平成29年11月24日
④ 平成29年11月26日
⑤ 平成29年11月29日



③葉柄の小病斑（接種8日目） ④葉柄の病斑の進展（接種10日目） ⑤黒条状の病斑（接種13日目）

写真3 接種によるゴボウ黒条病の発病（平成29年 野菜研究所）